

中学部図書だより

令和6年2月5日(月)

静岡県立沼津聴覚特別支援学校

中学部

文責:川村

～読書月間の取り組みについて～

11月6日から12月15日まで、秋の読書月間がありました。

中学部では、生徒考案で、先生たちを巻き込んでの読書ビンゴ、図書室前の掲示、中高合同読書会の参加、読書感想文等に取り組みました。掲示やビンゴ等の一部取り組みについては3学期も継続して行っています。

読書ビンゴ



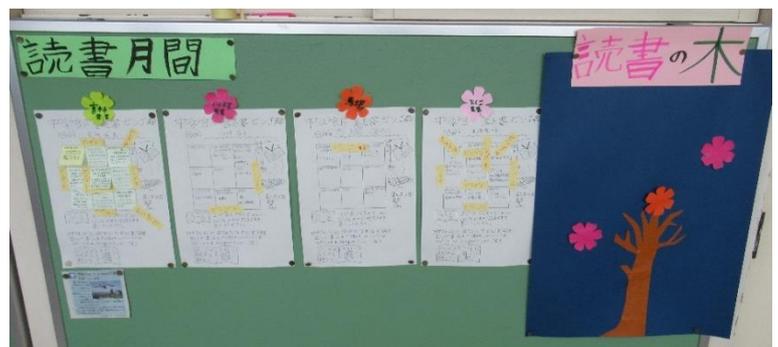
(教師を含む)中学部4人がそれぞれビンゴシートに読んでほしいジャンルやテーマを書き、カードをシャッフルして、引き当てたカードに書かれた本を読みました。

読書月間は12月まででしたが、中学部では冬休み明けまでというルールを決めて取り組みました。先生チームは着々と読書ビンゴを重ねていく中、読書が苦手という生徒もようやく1ビンゴを達成しました。手にとる前から諦めず、短くても、部分読みでもよいので、少しずつ、いろいろな本が読めるようになってよよいと思います。

しかし、今回挑戦していろいろな本に目を向けようという気持ちになったことにより、ファンタジーよりもドキュメントや事典のようなものの方が好きだということに改めて気付くという場面も見られました。

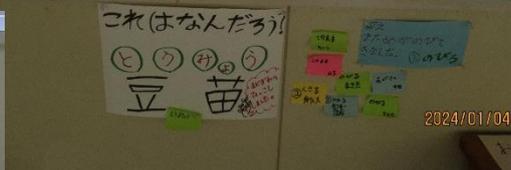
漫画や新聞も含めて様々なジャンルを読むことで、登場人物の気持ちを読み取る力が養われ、想像力が鍛えられます。人の気持ちが分かるようにもなります。また、新聞記事やニュースの読み取りでは、その記事が一番伝えたいことは何かを読みとり、自分の考えを整理することで、勉強が得意になったり、人に伝える力が身に付いたりします。

まずは気になる本や好きな本の好きなページを読むところから始め、短編や読み切りを探したり、漫画になって要る本を見つけたりしながら、徐々に楽しく読める本を増やしていけるとよよいと思います。



図書室前の掲示物

図書室の本に関連したクイズやなぞなぞを考えて掲示すると、小学部の児童や先生が答えを書いてくれ、やりがいを感じられるよい活動になりました。



中高合同読書会

沼津市立図書館より講師をお迎えして、読書会を行いました。並べられたたくさんの本の中では、『目で見ると単位の図鑑』という本がとても人気で、中学部の生徒も高等部の生徒も、ずっと熱心に読んでいました。本校でも、次年度の図書購入の際に参考にしたいと思います。

今回は読書が苦手な人にも手に取れるような物というリクエストに対し、市立図書館で働く人の選ぶ、「本嫌いでも面白いと感じた本」を紹介して下さいました。漫画の英訳、芸人の書いた本、写真集、漫画やアニメにもなっている小説、大人に読んでほしい絵本、余暇の本や文化の分かる本等、どれも手に取りやすい、おもしろそうな本が並んでいました。

【紹介いただいたおすすめ本】(抜粋)

- ・麒麟川島のタグ大喜利 (川島明)
- ・目で見ると単位の図鑑(東京書籍)
- ・Sazae-san(長谷川町子)*英語版
- ・二番目の悪者(林大林)
- ・平安時代のスイーツ(前川佳代)
- ・たくさんのドア(アリスン・マギー)

- ・大人になるっておもしろい?(清水真砂子)
- ・江戸の怪奇譚 人はこんなにも恐ろしい(氏家幹人)
- ・アリスの不思議なお店(フレデリック クレマン)
- ・奇跡の夢ノート(石黒由美子)
- ・日々是好日(森下典子)
- ・本と鍵の季節(米澤穂信)



読書をする…

- ①想像力が豊かになる!
- ②人の気持ちが分かるようになる!
- ③発想力が豊かになる!
- ④勉強が得意になる!
- ⑤人に伝えるのが上手になる!

(旺文社『学校では教えてくれない大切なこと 22 本が好きになる』より)



まさに「いいことづくめ」ですね。読書に苦手意識がある人も、まずは身近な本を手に取って、ぱらぱらとめくってみるところから始めましょう。